

東地区小学校再編事業について

1 経過と現状

市では、これまで平成21年度に策定した稲敷市学校再編整備実施計画により市内小学校の再編を進めてきました。令和3年度に桜川地区が完了し、東地区を残すのみとなっております。

しかしながら、東地区の統合小学校建設事業については令和4年度に基本計画を策定しましたが、物価高騰や候補地の浸水対策により事業費があまりにも高額になることから計画の見直しをいたしました。

教育委員会において、下記「東地区統合小学校候補地別概算事業費」のとおり、工法の変更や候補地の見直しを行った場合の事業費を算出しました。建設資材価格の各種指数においては、一時期のような高騰は沈静化の兆しが見られますが、人件費に関しては急激な上昇基調にあることから、現在においても物価高の影響により、引き続き高額な事業費が見込まれております。

また、ここ数年における本市の出生者数の著しい減少を考えると、市内全域での学校の適正配置を考えなければならない状況もあり、そういった状況を総合的に判断し、令和5年第4回市議会定例会において「東地区統合小学校の建設を断念せざるを得ない」との市長発言に至りました。

東地区統合小学校候補地別概算事業費

候補地	概算金額	概算金額（建物最小）
①-1生涯学習センター北側敷地（建物エリアのみ盛土）	56.5億円	47.9億円
①-2生涯学習センター北側敷地（盛土無し）	51.4億円	42.8億円
②生涯学習センター南側敷地	47.2億円	38.6億円
③東中学校利用	37.3億円	37.3億円
④あずま北小学校	51.7～56.7億円	43.1～48.1億円
⑤ゆたか幼稚園	50.3億円	41.7億円
⑥あずま西小学校	51.9億円	43.3億円
⑦新利根川北側民地	59.9億円	51.3億円

建物を最小にした場合（共有スペース、児童クラブ室や備蓄倉庫の削減など）
延床面積：6017.5㎡
設計費：2億円 工事費：29億円
概算建築費：31億円

2 今後の教育委員会の取り組み

東地区の既存校の改修を実施し、教育施設の充実を図るとともに、児童、保護者、地域に寄り添い子ども達にとって最良の教育環境が整えられるように一層協議を重ねてまいります。

また、あずま北小学校における複式学級編制時には、複式学級のデメリットを解消するための適切な対応をとるとともに、児童や保護者の不安を払拭できるよう、学校、保護者との情報共有を図ってまいります。

今後は、市全体における急激な出生者数減少に対応した公立小中学校の適正規模・適正配置の在り方を早急に検討していく必要があると考えております。

東地区の小学校の今後の対応に関しましては、下記の通り実施してまいります。

(1) あずま北小学校の複式学級の対応について

市で講師を雇うことにより複式学級特有の、複数学年を同一教室で交互に指導する「わたり」などの授業スタイルを解消し、各学年が実質的に単独での授業を実施してまいります。

今後、あずま北小学校において児童数がさらに減少した場合などは、あずま西小学校やあずま東小学校への統合により対応してまいりたいと考えております。

(2) 既存3小学校の老朽化対応について

これまで、東地区小学校の再編計画の為にストップしていた「稲敷市学校施設長寿命化計画」に則り、東地区の3つの小学校の改修を実施し、子ども達の教育環境の充実を図ってまいります。

(3) 小学校の小規模校化への対応について

小中学校の適正配置を検討することはもとより、市内の小学校が連携し、運動会やイベントを実施するなど、児童間の交流を活発化させるような集団活動を実施してまいります。また、ICTを活用したオンラインでの交流学習などの取り組みや、コミュニティ・スクールを核とした地域との連携強化など、小規模校のデメリットを解消できるように力を注いでいきたいと考えております。